

開催しました

## 「特別の教科 道徳」授業づくり研修会（理論編）

5月31日（木）「特別の教科 道徳」授業づくり研修会（理論編）を開催しました。小学校45名、中学校31名の参加があり、道徳の授業づくりへの関心の高さがうかがえました。

### 模擬授業 教材名「手品師」 講義 「発問づくりについて」「評価について」

西部教育事務所所員が、「手品師」の教材を使用して、発問づくりに焦点を当てた模擬授業を行いました。

道徳の教科化に伴い、「考え、議論する道徳」への転換が求められています。これまでの道徳の授業を変えていくためには、まずは発問を工夫していくことがポイントです。中心発問や問い返しの仕方、児童・生徒の意見の扱い方、他の児童・生徒への意見の広げ方などの解説をしながら、授業を展開しました。児童・生徒役になった参加者の方々が、考えを述べたり、うなずきながら聞いたりする姿から、「自分の授業の参考にしよう」という意気込みが感じられました。

また、講義では、「評価」についての説明も行いました。評価の基本的な考え方や評価の視点、評価の方法について、熱心にメモをとる参加者の姿が見られました。

### 演習・協議

#### 発問づくりを通して、「考え、議論する道徳」の授業を組み立てよう

演習・協議では、「講義の内容を生かして、授業を計画しよう」ということで、発問づくりを通して「考え、議論する道徳」の授業づくりが話し合われました。

教材は、模擬授業で使用した「手品師」でした。中学校の参加者にとっては見慣れない資料だったかもしれませんが、中学生に授業するとしたらどのような発問が考えられるか、どのような交流のさせ方があるかなどについて、まずは個人で練られていました。

グループごとの協議に移ると、自分が考えた中心発問や交流のさせ方、そう考えた理由などについて一人一人紹介しながら、活発な意見交換が行われていました。

#### 〔参加者の声〕

- ・ これからの指導に役に立つことが盛りだくさんでした。自分がしっかり学んでいかなければと思いました。
- ・ 評価の方法など疑問があったが、それが分かり勉強になりました。学校でも共通理解して評価を行っていきたいと思います。
- ・ 交流のさせ方や役割演技の取り入れ方など、指導技術についても研修会で学びたいです。

## 道徳における、授業づくりのポイントを紹介します。

一番のポイントは、「**発問を変えていく**」こと。  
どんな言葉で、どんなことを問えばいいのかについて  
簡単に説明します。



児童生徒に対して、「本当にそうなのか」と問いかけることで、新たな感じ方や考え方を促すことができます。

**「なぜ（どうして）～なのか」**

根拠や理由について考える問い

**「そもそも～とは何だろう」**

根拠や理由について改めて考える問い

このような発問をし、児童生徒の言葉を紡ぎながら問い返していったり、自然と自身と重ねて考えられるようにしたりすることが大事です。

(参考資料:「考え、議論する道徳」の授業へ向けて H30.2 佐賀県教育委員会)

平成30年2月に佐賀県教育委員会が小学校の先生方へ配布した『「考え、議論する道徳」授業へ向けて』は、佐賀県教育委員会ホームページのライブラリーにも掲載しています。ダウンロードできますので活用ください。中学校の先生方へは今年度中に配布予定です。

### 特別支援教育の窓

— 第1回 特別支援教育から学ぶ① —



今回は、通常学級における指導の工夫についてです。

**Q** : 小3の通常学級の担任をしています。クラスに自閉症傾向のSくんがいます。先日、遠足の事前指導をしているとき「自宅に帰るまでが遠足ですから、まっすぐ家に帰りましょう。」と言うと、大きな声で「まっすぐ帰ったら川に落ちます!」と叫びました。Sくんのような場合、どのような対応をしたらよいのでしょうか。

**A** : Sくんは、文字通りに受けとり、相手の気持ちを察することが苦手です。ですから、慣用句などを使用する際は「その本当の意味」を付け加えて話すようにしましょう。案外、一度説明を聞いて納得したことは、次からは素直に聞き入れるようになります。要は分かっている当たり前と思わず教える必要があるのです。授業参観日など普段と違う光景が見られるような場合は、あらかじめ授業が始まる前に、「何か気付いたことや気になることがあれば、今、言ってもいいですよ。」と投げかけてみましょう。気付きを発言する時間がいつなのか分かれれば、授業中に思いつきで発言することが減ります。他の子供たちからも様々な気付きが出されて、活気ある授業の導入になることが多いようです。